

G 日本史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の史料1～8を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。
なお、史料中の表記は一部を改めている。

1. 倭人は（イ）の東南、大海の中にあり。山島に依りて国邑をなす。旧、百余国。漢の時、朝見する者あり。今、使訳通ずる所三十国。（中略）女王国より以北には、特に〈あ〉を置き諸国を檢察せしむ。諸国これを畏憚す。常に伊都国に治す。（中略）（景初二）年十二月、詔書して倭の女王に報じて曰く、（中略）今、汝を以て〈い〉王と為し、金印紫綬を仮す。出典：『三国志』魏書東夷伝倭人条

2. （大化二年春正月）即ち改新の詔を宣りて曰く。その一に曰く、昔在の天皇等の立てたまへる子代の民、姓々の（ロ）、および、別には臣・連・伴造・国造・村首の所有る（中略）を罷めよ。よりて（ハ）を大夫より以上に賜ふこと、おのおの差あらむ。（中略）その二に曰く、初めて京師を修め、畿内・国司・郡司・関塞・斥候・防人・駅馬・伝馬を置き、及び鈴契を造り、山河を定めよ。出典：『日本書紀』

3. 天皇、東大寺に幸し、〈う〉仏の像の前殿に御しまして、北面して像に對ひたまふ。皇后・太子、並びに侍りたまふ。群臣百寮と士庶、分頭して殿の後に行列す。勅して左大臣〈え〉を遣して仏に白さく、三宝の奴と仕へ奉る天皇が命らまとく〈う〉の像の大前に奏し賜へと奏さく。此の大倭国は、天地開闢けてより以来に、黄金は人国より献ることはあれども、斯の地には無き物と念へるに、聞こし看す食国の中の東の方、（ニ）国守従五位上百濟王敬福^{*1}い、部内の少田郡に黄金ありと奏して献れり。（中略）百官の人等を率ゐて礼拝み仕へ奉る事を、掛けまくも畏き三宝の太前に、恐み恐みも奏し賜はくと奏す、とまうす。出典：『続日本紀』

*1
敬福い：「敬福が」の意

4. （天平宝字八年）天皇（中略）勅して曰く、太師正一位（ホ）并せて子孫、兵を起して逆を作す。仍て官位を解免し、并せて藤原の姓字を除くこと已に畢りぬ。其の職分・功封等の雜物は悉く収むべし、とのたまふ。即ち使を遣はして三関を固く守らしむ。（中略）丙午、高野天皇勅したまはく、今聞く、逆臣（ホ）、官の印を盗み取りて逃げ去りぬ、と。（中略）北陸道の諸国は、〈お〉官の印を承け用ゐるべからず。出典：『続日本紀』

*2
高野天皇：讓位した後の孝謙天皇を指す

5. (寛仁二年十月) 今日、女御藤原 (へ) を以て皇后に立つるの日なり。(中略) 太閤、下官を招き呼びて云く、和歌を読まむと欲す。必ず和すべし。^{てより}者。答へて云く、^{いづくん}何ぞ和し奉らざらむや。又云ふ、誇りたる歌になむ有る。但し宿構に非ず。者。此の世をば我が世とぞ思ふ望月のかけたることも無しと思へば。余、申して云く、御歌優美なり。^{しゅうとう}酬答に方無し。^{すべ}満座、只この御歌を誦すべし。 出典：藤原実資『(ト)』

6. 白河にく か >寺を立て、九重の塔婆なども昔の御願の寺々にも越へ、例なきほどぞ造り整へさせたまひける。こののち代ごとにうち続き御願寺を立られしを、造寺熾盛^{しせい}のそしり有き。造作のために諸国の重任なんどいふこと多くなりて、(チ)の功課も正しからず、封戸・庄園あまた寄せおかれて、まことに国の費とこそ成りはべりにしか。天下を治めたまふこと十四年、太子に譲りて尊号あり。世の政を初めて院中にて治^しらせたまふ。後に出家せさせたまひても、猶、そのままにて御一期は過ごさせましましき。おりる^{*4}にて世を治^しらせたまふこと、昔は無かりしなり。孝謙^{だっし}脱屣^{*5}の後にぞ、廢帝^{*6}は位にゐたまふばかりとみえたれど、古代のことなれば確かならず。嵯峨・清和・宇多の天皇も、ただ譲りて退^のかせたまふ。(中略) この御代には、院にて政をきかせたまへば、執柄³⁾はただ職にそなはりたるばかりになりぬ。されどこれより又、古き姿は一変するにやはべりけん。執柄世をおこなはれしかど、宣旨・官符にてこそ天下の事は施行せられしに、この御時よりく き >・序御下文を重くせられしによりて、在位^{*8}の君、また、位にそなはりたまへるばかりなり。世の末になれる姿なるべきにや。

出典：< く >『神皇正統記』

^{*3}熾盛：非常に盛んなこと

おりる^{*4}にて：讓位した立場で

脱屣^{*5}の後：讓位した後で

廢帝^{*6}：孝謙天皇を継いだ淳仁天皇を指す

執柄^{*7}：摂政・関白を指す

在位^{*8}の君：天皇を指す

7. (治承四年) 又伝へ聞く。謀叛の賊、< け >の子、年来配所の伊豆国にあり。しかるに近日凶悪を事とし、去るころ新司^{ひょうれき*}の先使と凌^り辱し、凡そ伊豆・駿河両国を押領しおわんぬ。又為義の息、一兩年熊野の辺りに来たり住む。しかるに去⁴⁾る五月の乱逆の刻み、板東方に赴きて、彼の< け >の子に与力す。大略謀叛を企つるか。あたかも将門の如しと云々。 出典：九条兼実『(リ)』

凌辱^{*9}：凌辱、争いあうこと

8. 日本准三后某、書を大明皇帝陛下に上る。日本国開闢以来、聘問を上邦に通ぜざること無し。某、幸にも国鈞をとり、海内におそれ無し。特に往古の規法にしたがひて、肥富をしてくこに相副へ、好を通じて方物を獻ぜしむ。金千兩、馬十匹、薄様千帖、扇百本、屏風三双、鎧一領、筒丸一領、劍十腰、刀一柄、硯管一合、同文台一箇。海島に漂寄の者、幾許人を搜尋し、これを還す。某誠惶誠恐、頓首頓首謹言。

出典：(ヌ)『善隣国宝記』

A. 文中の空所(イ)～(ヌ)にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次の a～d から 1つずつ選び、その記号をマークせよ。

- | | | | | |
|------|---------|----------|-----------|----------|
| (イ) | a. 玄菟 | b. 帶方 | c. 楽浪 | d. 臨屯 |
| (ロ) | a. 部曲 | b. 田莊 | c. 名代 | d. 屯倉 |
| (ハ) | a. 官位 | b. 季祿 | c. 口分田 | d. 食封 |
| (ニ) | a. 周防 | b. 対馬 | c. 武蔵 | d. 陸奥 |
| (ホ) | a. 惠美押勝 | b. 橘奈良麻呂 | c. 道鏡 | d. 藤原広嗣 |
| (ヘ) | a. 明子 | b. 薬子 | c. 威子 | d. 宮子 |
| (ト) | a. 大鏡 | b. 小右記 | c. 日本三代実録 | d. 御堂関白記 |
| (チ) | a. 守護 | b. 地頭 | c. 受領 | d. 目代 |
| (リ) | a. 玉葉 | b. 禁秘抄 | c. 元亨釈書 | d. 釈日本紀 |
| ?(ヌ) | a. 桂庵玄樹 | b. 瑞溪周鳳 | c. 無学祖元 | d. 夢窓疎石 |

B. 文中の空所<あ>～<こ>それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

C. 文中の下線部 1)～5)にそれぞれ対応する次の問 1～5に答えよ。解答はそれぞれに与えられた a～d から 1つずつ選び、その記号をマークせよ。

1. これに関する記述として正しいのはどれか。
 - a. 叡尊は、インドの建築様式である大仏様(天竺様)を採用して南大門を再建した
 - b. 行基が招かれて、出家者が受戒するための戒壇が創建された
 - c. 興福寺とともに、藤原氏の氏寺であった
 - d. 唐や新羅の僧から華嚴を学んだ良弁は、これの建立に活躍した

2. これに関する記述として正しくないのはどれか。
- a. 伊勢国に鈴鹿関がおかれた
 - b. 東海道には箱根関がおかれた
 - c. 北陸道には愛発関がおかれた
 - d. 美濃国に不破関がおかれた
3. これらの人物に関する記述として正しくないのはどれか。
- a. 宇多天皇は在位中に摂政・関白を置かず、菅原道真を重用した
 - b. 嵯峨天皇は兄の平城太上天皇と対立し、二所朝廷とよばれる政治的混乱が生じた
 - c. 嵯峨天皇は弟の淳和天皇に譲位し、ついで皇位は嵯峨の皇子の仁明天皇に伝えられた
 - d. 清和天皇は応天門の変に際して藤原良房を正式に摂政に任命し、伴善男らを断罪させた
4. これに関する記述として正しいのはどれか。
- a. 後白河法皇の皇子である以仁王が、源頼政とともに兵を挙げた
 - b. 平貞盛・藤原秀郷らが、みずからを新皇と称した反乱者を討伐した
 - c. 藤原成親・僧の俊寛らが、鹿ヶ谷で平氏討伐の密議をしていたことが発覚した
 - d. 北条時政は源頼家を幽閉し、その弟である実朝を将軍とした
5. これに関する記述として正しいのはどれか。
- a. 海禁政策をとっていた明は、これにこたえて日本との貿易のために塩浦を開いた
 - b. 遣明船は、幕府が作成した勘合とよばれる証票の持参を義務づけられた
 - c. 日本准三后某は、のちに日本国王臣源を名のった
 - d. 明の朱元璋は翌年、日本国の大君宛てに返書を送った

Ⅱ. 次の文1～4を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定の欄にしるせ。

1. 徳川幕府の貿易政策には、貿易奨励策としての側面と貿易管理政策としての側面がみられる。それは、朱印船貿易と（イ）制度に典型的にあらわれている。

朱印船貿易は、海外に渡航する大名や在留中国人をふくむ商人に朱印状を交付し、外国船に対する貿易の機会均等を保障すると同時に、貿易を幕府の管理・統制下におくものであった。朱印船を派遣したのは主として西国の諸大名で、実質的な貿易に携わったのは京都の茶屋四郎次郎、大坂の末吉孫左衛門らの貿易商人であった。また、（イ）制度は、幕府が（イ）仲間に輸入生糸を一括購入させ、ポルトガル商人らの利益独占を排除するものであった。

幕藩体制が固まるにつれて、活発な海外貿易にも制限が加えられるようになった。幕府は、1616年には中国船をのぞく外国船の寄港地を（ロ）と（ハ）に制限し、1624年にはくあ>船との貿易を禁じた。また、1631年には海外渡航船に対し、朱印状のほかに老中が発行する（ニ）を所持することを命じた。そして、1635年には日本人の海外渡航と在外日本人の帰国を禁止し、中国船の寄港を（ロ）に限定した。

2. アメリカ総領事のハリスは、清国がイギリス・フランスと1858年にくい>条約を結ぶと、幕府に英・仏の脅威を説いて通商条約への調印をせまった。大老の井伊直弼は、1858年、勅許を得られないまま日米修好通商条約に調印した。幕府は、1860年に条約批准のため、外国奉行くう>を首席全権としてアメリカに派遣した。

日本は、1859年に横浜（神奈川）・（ロ）・箱館の3港を開港し、欧米諸国との貿易を開始した。日本からは農水産物やその加工品が多く輸出され、繊維製品や軍需品が輸入された。貿易は大幅な輸出超過となり、物価がいちじるしく上昇するとともに国内産業や商品流通に大きな影響を及ぼした。

幕府は、金貨の海外への大量流出を防ぐため、金貨の品質を大幅に引き下げる改鋳を行ったが、貨幣の実質的な価値が下がり物価上昇に拍車をかけることになった。物価上昇は、庶民の生活を圧迫し、貿易に対する反感を高めた。このことは攘夷運動の一因ともなり、ハリスの通訳であったオランダ人のくえ>が江戸で薩摩藩の浪士に殺された。また1862年には、神奈川宿に近い（ホ）村で、江戸から帰る途中であった薩摩藩の島津久光の行列を横切ったイギリス人が殺傷された。その後、薩摩藩はこの事件の報復として、1863年にイギリスに攻撃された。

この間、人々のあいだに社会不安が広がり、各地で民衆宗教がおこった。また、幕府

や諸藩による西洋の文化や技術の摂取も進んだ。

6)

3. 日清戦争後の1890年代後半には、繊維産業を中心に資本主義が本格的に確立し、貿易の規模も拡大した。貿易品の取扱いでは三井物産などの商社が活躍し、1880年に設立され1887年に特殊銀行となった（ヘ）銀行が貿易金融にあたった。また、政府は1896年に造船奨励法や航海奨励法を公布して、鉄鋼船の建造と外国航路への就航に奨励金を交付することにした。郵便汽船三菱会社と半官半民の（ト）会社との合併で1885年に設立された日本郵船会社は、1893年にボンベイ航路、1896年にはヨーロッパ・アメリカ・オーストラリアへの各航路をひらいた。

紡績業では、1890年に綿糸の生産量が輸入量を上まわった。そして、日清戦争期からアジアへの綿糸輸出が急増し、1897年には輸出量が輸入量を上まわった。主に手織機によって問屋制家内工業生産が行われていた農村の織物業でも、＜お＞らが考案した小型の国産力織機を導入して小工場に転換する動きが進んだ。また、この間、日本の貿易は拡大し、企業勃興期前の1885年には輸出3715万円、輸入2936万円であったが、産業革命期の1899年には輸出2億1493万円、輸入2億2040万円となった。

日露戦争後には、軍需品や重工業資材などの輸入が増加したこともあって、貿易収支は毎年のように大幅な赤字となった。そして、台湾・朝鮮など、植民地の日本経済における役割が大きくなった。

8)

4. 日本経済は1955年から20年近く、経済成長率が年平均10%をこえる高度成長を続けた。低コストで高品質な工業製品の大量生産体制が整備され、生産性がいちじるしく上昇した。高度経済成長の過程で労働者や農民の所得が増加し、国内市場が拡大するとともに、鉄鋼・船舶・自動車などの重化学工業製品を中心に輸出が増大した。また、1955年には日本社会党の左右両派が再統一をはたした。同年、日本民主党と自由党が合流して自由民主党を結成し、いわゆる55年体制が成立した。

1973年に（チ）戦争が勃発すると、アラブ石油輸出国機構は欧米や日本に対する石油輸出制限を実施した。これに応じて石油輸出国機構が原油価格を4倍に引き上げたため物価が高騰し、第1次石油危機がおこった。その後、世界経済が停滞するなかで、日本は第2次石油危機も乗り切っていちはやく不況から脱出し、安定成長の軌道にのった。鉄鋼・石油化学・造船などの停滞はいちじるしかったが、自動車・電気機械のほか、半導体・IC（集積回路）・コンピュータなどのハイテク分野が輸出向けを中心に生産をのばした。日本の貿易黒字は大幅に拡大し、欧米諸国とのあいだに貿易摩擦が生じた。

そのため、アメリカは日本に自動車などの輸出自主規制を求め、農産物の輸入自由化をせまった。日本政府は、1988年に牛肉・オレンジの輸入自由化を決定した。そして、ウルグアイ＝ラウンドでの交渉を経て、1993年に（リ）党の党首である細川護熙を首班とする連立内閣のもとで（ヌ）市場の部分開放に合意した。

A. 文中の空所(イ)～(ヌ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の空所<あ>～<お>にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次の a～d から 1 つずつ選び、その記号をマークせよ。

<あ> a. イギリス b. オランダ
 c. スペイン d. ポルトガル

<い> a. 上海 b. 天津
 c. 南京 d. 北京

<う> a. 勝海舟 b. 新見正興
 c. 伊達宗城 d. 松平慶永

<え> a. ヒュースケン b. ビッドル
 c. ベルツ d. ホフマン

<お> a. 浅野総一郎 b. 臥雲辰致
 c. 豊田佐吉 d. 古河市兵衛

C. 文中の下線部 1)～10)にそれぞれ対応する次の問 1～10に答えよ。

1. これにあてはまるのは誰か。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

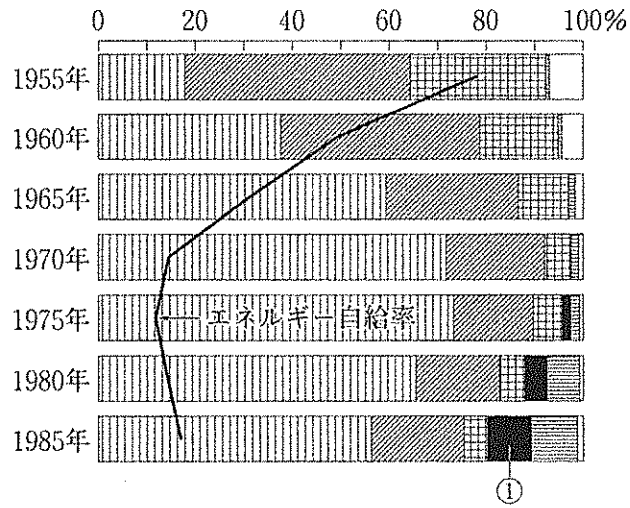
a. 有馬晴信 b. 島津重豪
c. 伊達政宗 d. 北条氏政

2. この時期に幕府のとった施策として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

a. 江戸・京都・大坂・長崎・堺などの都市を直轄した
b. 京都・大坂・駿府の重要都市に遠国奉行をおいた
c. 京都守護職において朝廷や西国大名を監視した
d. 関ヶ原の戦いの翌年に一国一城令を発した

3. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 江戸市中の物価高騰は五品江戸廻送令の公布によって沈静化した
 - b. 桐生など国内の絹織物産地では生糸が不足した
 - c. 綿糸が大量に輸入されたため、国内の製糸業は生産を縮小した
 - d. 綿糸・綿織物が大量に輸出され、国内の綿花栽培も拡大した
4. このあとの薩摩藩に関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. イギリスに接近する開明政策に転換した
 - b. 島津久光は責任をとって隠居した
 - c. 調所広郷が薩摩藩の財政改革を断行した
 - d. 幕府の出兵命令に従って、第二次長州征伐に兵を出した
5. このうち川手文治郎（赤沢文治）を創始者とするのを何と呼ぶか。その名をしるせ。
6. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 講武所では箕作阮甫らの著名な洋学者が洋学研究にあたった
 - b. 幕府は本多利明の提言をいれて長崎に台場を設けた
 - c. 蕃書調所は洋書調所を経て開成所となった
 - d. 横須賀の海軍伝習所ではオランダから寄贈された軍艦で訓練を行った
7. この年にもっとも輸入額が多かったのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 毛織物
 - b. 砂糖
 - c. 石油
 - d. 綿花
8. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 台湾では製糖業などを中心に産業振興策をとった
 - b. 台湾では半官半民の東洋拓殖会社が開発を進めた
 - c. 朝鮮では関東都督府のもとで工業化を推進した
 - d. 朝鮮では土地調査を実施して朝鮮人の土地所有を拡大した
9. この初代総裁となったのは誰か。その名をしるせ。

10. この前後の第1次エネルギー供給量の推移を示すと、次のグラフのようになる。グラフ中の①が示すのはどれか。下記のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。



(『総合エネルギー統計』による)

a. 原子力

b. 石炭

c. 石油

d. 天然ガス

【以下余白】

